

# 平成三十年度入学試験

## 試験問題

### 国語

#### 注意

- 一、開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
- 二、受験番号を解答用紙の三カ所<sup>1</sup>に書き、答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 三、問題は **1** から **6** までで、九ページにわたって印刷してあります。  
なお、問題用紙のほかに別紙があり、表に別紙1、裏に別紙2が印刷されています。
- 四、終了のチャイムが鳴ったら、すぐに筆記用具を置きなさい。

1

次の①～⑧の傍線部分について、漢字は読みをひらがなで書き、ひらがなは漢字に直しなさい。

- ① 失恋した友人を慰める。
- ② 間一髪のところ<sup>で</sup>難を逃れた。
- ③ 彼女は穏和な性格だ。
- ④ 弱点を克服するために練習に取り組む。
- ⑤ 年をとって体力がおとろえる。
- ⑥ 家族とはつもうでに行く。
- ⑦ 重要なところはけいこうペンで印をつける。
- ⑧ いたずらをした子どもを祖父がしかつた。

2

別紙1の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

問1 傍線部分(1)「それが気に入くわない」とありますが、何が気に入くわないのですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 床屋へ行くのを入学式直前まで往生際悪く先延ばししていること。
- イ 潔く丸刈りにせず、校則に収まる程度の長さに切ってもらうこと。
- ウ 床屋のおじさんが経済的なやり方を教えてくれたこと。
- エ 男なのにシャンプーやドライヤーを使って見た目を気にすること。

問2 傍線部分(2)「すばやく目を閉じた」・(3)「目をカッと見開いた」とありますが、このときの気持ちの変化を四十五字以内で書きなさい。(句読点も一字に数える。)

問3 傍線部分(4)「大好きだからこそ、この写真はだめなのだ」とありますが、それはなぜですか。二十五字以内で書きなさい。(句読点も一字に数える。)

問4 傍線部分(5)「か」と用法・はたらきが同じものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア そうか、彼はもう帰ってしまったのか。
- イ 進むべきか、退くべきか、それが問題だ。
- ウ 駅へ行くにはどう行ったらいいのですか。
- エ こんなにいい天気の日には部屋に閉じこもっていられようか。

3 別紙2の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

問1 傍線部分(1)「クマゼミの増加の原因」とありますが、クマゼミ増加の原因としてあてはまらないものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 冬の寒さの緩和によってクマゼミの卵の越冬中の死亡率が低下したこと。

イ 都市化、温暖化によって乾燥したことで卵から孵化するときの生存率が上昇したこと。

ウ 乾燥し、踏み固められて土が硬くなったことで、他のセミの幼虫が地面にうまく潜れなくなったこと。

エ 温暖化によって卵の発生が速くなり、一齢幼虫の生存に好適な梅雨の時期に孵化できるようになったこと。

問2 空欄□に入る言葉を次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 夏の思い出      イ 都市の無常観      ウ 夏の風物詩      エ 古都の山紫水明

問3 二重傍線部分A・Bの活用形をそれぞれ次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 未然形      イ 連用形      ウ 終止形      エ 連体形      オ 仮定形      カ 命令形

問4 傍線部分(2)「海外との交流が増え、温暖化して生態系が単純になっている日本の都市部は、これらの恐ろしい病気が蔓延する危険性をもっていると言えま

す」とありますが、それはなぜですか。五十文字以内で書きなさい。(句読点も一字に数える。)

問5 この文章の特徴を説明したものとしてあてはまらないものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 専門的な立場からだけでなく、日常生活の中で感じたことから考察を深めている。
- イ 具体例を用いることによって、筆者の主張をわかりやすく説明している。
- ウ 筆者自身のさまざまな実験の検証を通して、論理的に展開している。
- エ 冒頭部で大学院生の研究成果を取り上げ、そこから自身の意見に発展させている。

4 次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

今は昔、<sup>※</sup>唐に、<sup>※</sup>孔子、道を行き給ふに、<sup>やっ</sup>八ばかりなる<sup>わらは</sup>童あひぬ。孔子に問ひ(1)申すやう、

「日の入る所と<sup>※</sup>洛陽と、<sup>※</sup>いづれか遠き」と。孔子<sup>※</sup>いらへ給ふやう、「日の入る所は遠し。洛陽は近し」。

童の申すやう、「日の出で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず。されば、日の出づる所は近し。洛陽は遠しと(2)思ふ」

と申しければ、(3)孔子かしこき童なりと感じ給ひける。

「孔子には、かく物問ひかくる人もなきに、かく問ひけるは、ただものにはあらぬなりけり」とぞ人いひ

〔宇治拾遺物語〕より

注(※) 唐Ⅱ中国

孔子Ⅱ中国の春秋時代の思想家

洛陽Ⅱ当時の中国の都の名

いづれかⅡどちらか

いらへ給ふⅡ返事をなさる

問1 傍線部分(1)「申すやう」(2)「思ふ」を現代かなづかいに改め、すべてひらがなで書きなさい。

問2 傍線部分(3)「孔子かしこき童なりと感じ給ひける」とありますが、童のどのような考えを聞いて孔子は「かしこき」と感じたのですか。三十五字以内の現代語で説明しなさい。

問3 空欄  に入る言葉を次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア けら    イ けり    ウ ける    エ けれ

問4 「孔子」の言行をまとめた書物を次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 三国志    イ 論語    ウ 白氏文集    エ 史記

5

セントヨゼフ女子学園では、昨年度から「salad days in Mie」という名前で、三重県の魅力を世界に発信する活動がスタートしました。そこで、文子さんのクラスでは、三重県の観光について話し合いをしました。次に示すのはそのクラスでの話し合いの記録です。これを読んで後の各問いに答えなさい。

文子 先輩たちの「salad days in Mie」の活動のように、私たちも三重の観光について考えてみませんか？

理子 三重の観光地としては伊勢志摩国立公園が何といても有名よね。三重だけでなく日本中で、自然に親しむ観光地として国立公園の人口が高まっているよね。世界遺産に登録された所もあるし。

香 国立公園に行ってみたいと思っている人はどのくらいいるのかな？

文子 世論調査によると八割以上の人が国立公園に行きたいと答えているわ。資料Aを見ると国立公園に行く一番の目的は  1  ことね。

香 若い女性の間では、寺社や温泉が楽しめることも人気よね。

理子 日本人だけでなく外国人の観光客にも国立公園を訪れる人が増えているわね。資料Bを見ると外国人利用者の一番人気は何といても富士箱根伊豆ね。この調査では三重県の伊勢志摩は十二位だけど、平成二十四年に比べると平成二十五年には  2  人増加しているわ。

文子 もっともっと多くの海外の人たちに知ってもらいたいわね。

理子 環境省は「国立公園満喫プロジェクト」を立ち上げて、誰もが訪れたいくなる自然と共生した地域づくりを応援しているということよ。特に、全国で八つの国立公園を選定し、先行的・集中的に取り組みを進めているそうよ。その中に三重県の伊勢志摩国立公園も含まれているのよ。

文子 私たちにも何かできそうね。

理子 国立公園満喫プロジェクトでは海外への情報発信を強化する取り組みもなされているわ。

文子 「salad days in Mie」もそのような活動の一端を担うことができたらすてきね。

理子 資料Cを見ると外国人観光客が最も関心を持っていることは、  3  のようよ。

香 だったら「salad days in Mie」にもそのような情報を盛り込むと喜ばれるかもしれないわね。

伊藤先生 そもそも国立公園の役割は観光だけなのかな。

理子 そうですね、( ) という役割もありますね。

香 私も父に連れられて山歩きに行ったときに、遊歩道に板が敷かれていて、その理由を父に尋ねたら、靴底についた他の場所の土を持ち込ませないためだと教わったわ。それに、その花を持って帰ることも禁止されていたわ。

文子 なるほど、国立公園は観光地として利用するだけでなく、本来の目的を見失わず、多くの人にその魅力を広めていくことが大切なのね。

資料A 国立公園に関する世論調査

(内閣府 平成25年8月調査)

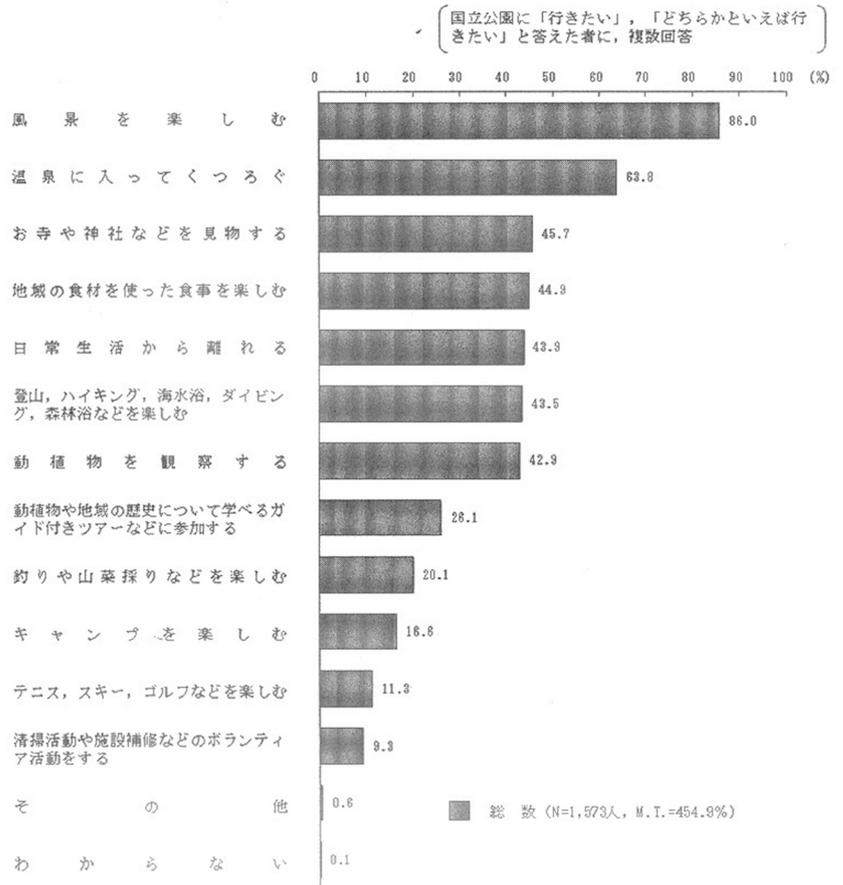
問 4 会話文中の( )にはどのような内容が入ると考えられますか。十字以内で答えなさい。

問 3 空欄 3 に入る言葉を資料Cから読み取って答えなさい。

問 2 空欄 2 に入る数字を資料Bから読み取って答えなさい。

問 1 空欄 1 に入る言葉を資料Aから読み取って答えなさい。

図5 国立公園に行く目的



資料C 日本の国立公園に対する外国人の興味やニーズ等の調査  
(環境省 平成26年調査)

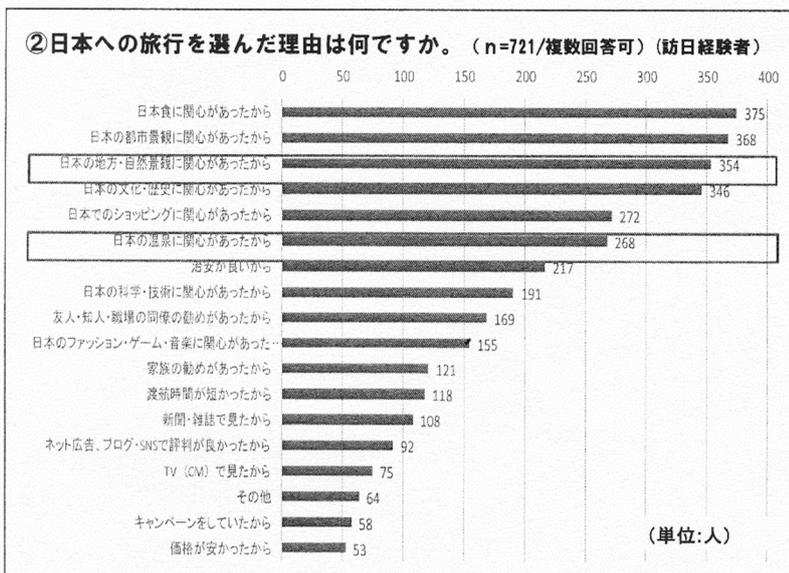
資料B (環境省 平成25年調査)

I 国立公園における訪日外国人利用者数の推計結果

平成25年の訪日外国人利用者数の多い国立公園

(平成25年の利用者数1万人以上の国立公園のみ記載)

国立公園名	平成25年利用者数	<参考>平成24年利用者数
1 富士箱根伊豆	100.7万人	83.8万人
2 支笏洞爺	31.7万人	24.0万人
3 中部山岳	31.4万人	13.4万人
4 阿蘇くじゅう	27.8万人	25.9万人
5 日光	13.9万人	10.4万人
6 上信越高原	10.8万人	10.7万人
7 瀬戸内海	7.9万人	6.3万人
8 大雪山	5.6万人	6.4万人
9 霧島錦江湾	5.3万人	2.4万人
10 阿寒	5.1万人	4.6万人
11 西海	4.3万人	3.2万人
12 伊勢志摩	2.4万人	1.9万人
13 知床	1.7万人	2.4万人
14 山陰海岸	1.6万人	1.0万人
15 釧路湿原	1.6万人	1.3万人
16 雲仙天草	1.5万人	0.5万人



## 6

現代はA I（人工知能）の技術が発達し、将棋の対戦をしたり、さまざまな情報処理をしたりすることが可能になりました。このA Iの技術の進歩について、あなたはどのように考えますか。あなたの考えや意見を「注意」にしたがって書きなさい。

〔注意〕

- ① 題名は書かずに本文から書き出しなさい。
- ② 具体例を一つあげて、書きなさい。
- ③ 予想される反論についても触れて、あなたの考えをまとめなさい。
- ④ 原稿用紙の正しい使い方がい、全体を百六十字以上二百字以内にまとめなさい。

これで問題は終わります。

別紙1（本文は、設問の都合で省略した箇所があります。）

赤は女子の色だと思っていた。

ランドセルを見ればすぐにわかる。赤は女子、黒は男子。文房具を見て、女子の持ち物はないが赤やピンクやオレンジといったふにやふにやした色で、男子のほうはきつぱりと黒か青。気合が違う。

男子としては赤い色のものを身につけるわけにはいかないし、さわるだけでも女子がうつつてしまうかもしれない。体育の授業で「赤」にチーム分けされてしまうと、もうそれだけでふだんの力の半分しか出せないような気がした。紅白帽のツバをツノのように頭のてっぺんに立て、紅白を左右に半分ずつ割り振った「ウルトラマンかぶり」をするのが、せめてもの抵抗だった。

ましてや、四月からは中学生なのである。男子は男子、女子は女子。体育の授業も別々になるし、裁縫の針に糸を通すだけで一苦労だった家庭科の授業もなくなり、代わりに大工仕事を中心の技術科が始まる。男の気合をいっそう入れなければならぬ。

小学校の卒業式を終えると、その足で床屋とこやに出かけて、髪を丸刈りにした。進学する市立相生中学あひらいの校則で、男子は丸刈りと決められているのだ。友だちは皆、四月の入学式直前まで床屋へ行くのを先延ばしにしていたが、そういうのは往生際が悪い。卒業証書ももらったなら、もはや小学生ではないのだ。電車やバスは三月いっぱいはずいぶん子ども料金だったが、心と気合はもう中学生になった、ということにした。

校則では髪の長さは「おおむね一センチ以内」と記されていた。小学生の頃から通っている寺島理容店のおじさんに訊くと、長さ六ミリの三分刈りなら、月に一度の床屋通いですむらしい。坊主頭とはいっても六ミリあればシャンプーの泡が立ち、ドライヤーをあてる甲斐もある。なにより、地肌の青々としたところをさらさずすむ。経済的にも、見た目でも、ちよūdそそのあたりが手頃ということなのだ。

(1) それが気にくわない。中途半端は嫌いだ。毎月毎月床屋に行けるかボケ、と腹が立って、長さ三ミリの一分刈りにしてもらうことに決めた。これなら床屋通いも二カ月に一度ですむ。

「ほんまにええんか？ あとで文句言うたらいけんぞ。言われても知らんぞ、おっちゃん」

寺島のおじさんに何度も念を押された。心配されるとかえって意地になって、長さ二ミリの五厘刈りに変えてもらった。最後は目をつぶり、腕組みまでして、覚悟を決めた。

電気バリカンが、頭の真ん中を進んでいく。バサツと髪が落ちる感触で、とんでもないことが起きているのだとわかった。髪を刈ったところがひんやりとする。目を固く閉じて、腕をきつく組み、奥歯も噛みしめた。

十分もたたないうちに、頭を青光りさせた丸刈り坊主が誕生した。おそろおそろ目を開けて、鏡に映った自分の頭を見て、(2) すばやく目を閉じた。予想以上に頭が青い。おでこが意外と狭くて貧相だし、頭の形もでこぼこして格好悪いことに初めて気づいた。

しかたない。自分で決めたことだ。男が見てくれのことを言うたらいけんのじや、気合入れんかい、と腹に力を込めて、あらためて(3) 目をカツと見開いた。

「これで一学期いっぱい持っし、髪を洗うてもすぐに乾くし、色気づいて髪をいじることに気が散らんですむけえ、勉強ももうできるようになるし……」

おじさんは言い訳するように五厘刈りの長所を並べ立てて、最後に「それに」と笑った。

「ヤスはどうせ帽子かぶるんじやろう？」

そうなんよね、とヤスは笑い返した。鏡の中の丸刈り坊主も同じタイミングで笑う。あたりまえの話だ。それでも、まだピンと来ない。おじさんが帽子掛けから取って来てくれた野球帽をかぶって、やっといつもの自分に戻った気がした。

濃紺の帽子だ。去年の三月に買って、ほぼ一年、毎日かぶってきた。その前の年も、さらにその前も……小学校生活六年間で撮った写真は、ほとんどすべて野球帽をかぶっている。低学年の頃は、緑がかかった紺色の地に、白い「H」のワッペンが付いた帽子だった。五年生からは、いまか

ぶっているのと同じ、濃紺の地に白く縁取りをした赤い「C」のワッペン付き。

「H」は、HIROSHIMA——広島。

「C」は、CARP——カープ。

毎年三月の終わりに野球帽を新調してもらうのが楽しみだった。今年も、もうすぐペナントレースの開幕を迎える。

「ヤス、まだ新しい帽子は買うとらんのか」

おじさんに怪訝けげんそうに訊かれた。「もういまの帽子は、汗の染みが浮いとるぞ」

「……知つとるよ」

「おっちゃんも今度買いに行くけえ、ヤスのぶんも買って来ちやろうか？ 古いほうは大安売りしとるけど、新しいほうは早う買わんと売られるかもしれんぞ」

「自分で買うけえ、ええ」

首を横に振って椅子から降りた。痛いところをつかれた。おじさんも、ははーん、という含み笑いの顔になって、「恥ずかしいんは最初のうちだけじゃ」と言った。

聞こえないふりをして、レジでお金を払った。おじさんは釣りを渡すのは後回しにして、「ヤス、ここ、ここ、写真がまた増えたけえ、よう見てくれや」と胸を張る。

レジの後ろの壁は、カメラが趣味のおじさんが新作を披露するギャラリーひろろになっている。

秋の終わりから春までは花や鳥や海や山の写真ばかりだが、ちよūdこの時季から、ギャラリーは広島カープの選手の写真で埋め尽くされる。

「気に入ったんがあったら、特別にタダで焼き増ししちやるけえ、遠慮せんで言えや」

「ほんま？」

「おう、小学校の卒業祝いと中学校の入学祝いで二枚やろう」

(中略)

二枚の写真をじっと見つめたヤスは、「いらん」と首を横に振った。

「どっちも好かん」

ほんとうは山本浩二選手やまもとこうじも衣笠選手きぬがさも大好きなのだ。おじさんお薦めすすの高橋慶彦選手たかはしよしひこのことも、きつと好きになるだろう。

それでも、(4) 大好きだからこそ、この写真はだめなのだ。絶対に許せないのだ。

おじさんはまた、ははーん、と笑った。「ヤス、男がいつペン決まったものをグチャグチャ言うたらいけん。さつきも言うたらうが、すぐに慣れる。恥ずかしいんは最初のうちだけで、浩二も衣笠もなーんも気にしとらんかったぞ」

「そがめに言われても……」

「いままでが地味すぎとったけえ、これくらい派手なほうが目立ってええ」

のう、と諭されてもだめだった。理屈では受け容れるしかないとわかつていても、心の奥の、男の気合や根性が、どうしても納得してくれない。

山本浩二選手のかぶっている帽子は、真っ赤だった。衣笠選手の帽子も、打撃練習をする高橋慶彦選手のヘルメットも、赤——そこに白く縁取りをした濃紺の「C」のワッペン。

女子の色なのだ。

大好きなカープが、男の中の男の集団が、なにが悲しくて女子の色の帽子をかぶって野球をしなければならぬの(5)が。

口をとがらせるヤスに、おじさんは言った。

「赤は炎の色じや。血の色じや。戦う男の色なんじや」

スペインの闘牛とうぎゅうでも、牛は闘牛士の持つ赤い旗に向かって突進するのさという。

「カープの選手は牛と違うわい！」

思わずカッとなったヤスを、やれやれ、と苦笑いでいなしたおじさんは、紙バッグに入れたブントンを渡した。

「宮崎の土産みやぎじや、持って帰れ」

「ありがと……」

(重松清著「赤ヘル1975」より)

別紙2 (本文は、設問の都合で省略した箇所があります。)

このようにして、大阪における近年の(1)クマゼミの増加の原因として、以下のことが明らかになりました。まず、温暖化により冬の寒さが緩和されたことよってクマゼミの卵の越冬中の死亡率が低下してクマゼミが増えたではありませんでした。次に、都市化、温暖化によって乾燥したことが卵から※孵化する時の生存率に影響してクマゼミに有利にはたらきました。そして、都市化、温暖化にもなつて乾燥し、地面の清掃が行き届いた上、踏み固められて土が硬くなったことが、※一齢幼虫が土に潜る際に、他のセミではうまく潜れず、硬い土にも潜れるクマゼミに有利にはたらきました。最後に、温暖化によってクマゼミの卵の発生が速くなり、一齢幼虫の生存に好適な梅雨の時期に孵化できるようになったことよって、一齢幼虫の生存率が上昇したと考えられました。

これらは、森山さんが、大阪市立大学の学部四年生から大学院生だった六年間に行った研究の成果です。「大阪でクマゼミが増えたのは温暖化と関係があるの？」という疑問に答えるために、森山さんは、これらの実験を積み重ねて行つたのです。

その結果、温暖化、※ヒートアイランドがクマゼミの増加に關係していることが明らかになりました。地球規模の温暖化は、ヒートアイランドと一緒に気温の上昇に貢献したことは推定できますが、それよりも都市に特有の温暖化であるヒートアイランドとの関わりが強く示されたと言えます。

本書ではクマゼミに注目して書いてきましたが、大阪などの大都市でクマゼミばかりになったというのは、他のセミが減つたということにはなりません。最近の大阪市の様子からはアブラゼミが減つてクマゼミが増えたということになるのでしようが、かつては大阪市にもニイニゼミやツクツクボウシがいました。ミンミンゼミに関しては、大阪市には昔からいなかったと言う人もいますが、京都大学名誉教授の吉澤透さん(一九二七年生まれ)が、子どものころ大阪市内でセミ採りをした当時、ミンミンゼミがふつうにいたそうです。

東大阪市の枚岡山では、現在もこれら五種に加えてヒグラシがいます。わたしは京都大学に移つてから、これまでに夏を六回迎えました。京都市にある吉田キャンパスで毎年、クマゼミ、アブラゼミ、ニイニゼミ、ツクツクボウシ、ヒグラシ、ミンミンゼミと六種の鳴き声を聞いています。大阪市ではセミの多様性が失われ、その多様性の喪失に都市の温暖化が關係していると言ふこともできます。

ところで、クマゼミが増えていったい何が困るのでしよう。別にかまわないと言えましょうかもしれません。第2章に書きましたが、実害はそれほど深刻ではありません。ニイニゼミの鳴き声に夏の到来を知り、盛夏には、朝にクマゼミ、昼にアブラゼミ、夕方にヒグラシの鳴き声を聞く。そして、ツクツクボウシの鳴き声は夏の終わりを告げる。これは京都で毎年わたしが感じているです。大阪のようにクマゼミばかりになると、このように季節や時刻を感じる気持ちは失われてしまいます。セミだけではなく、都市では生物の種数が少なくなっています。生態系というのはたくさんの種の生物が複雑な相互作用をすることよって安定になっています。都市では自然環境に人間が大きく手を入れたことよって、生物の種数が著しく減

少して多様性の失われた単純な生態系になっています。単純な生態系は、何かが外部から侵入したり、環境が変化した時に劇的な変化が起きやすいという特性があります。まして温暖化によつて、かつては日本で冬を越すことができなかつた熱帯、亜熱帯由来の生物が死ななくなつていてることを考えると、日本の大都市は心配です。

たとえば、ウエストナイル熱という恐ろしい病気があります。この病気の病原体ウイルスは、ヒトと鳥、カに感染します。この病気はもともとアフリカのものでしたが、アメリカ合衆国などに侵入して大きな害をもたらしています。大阪市立大学に勤めていたころ、キャンパスにはヒトとクマゼミに加えて、ムクドリとヒトスジシマカがとてもA多いことにB気づいていました。日本でウエストナイル熱に感染した例はまだありませんが、一旦このウイルスが侵入したら日本の都市にはヒトと鳥、カがとても多いので、この病気が大流行する恐れがあります。セミはクマゼミしかいないという環境は、それ自体が大きな害をもたらすものではありませんが、生態系が単純になっていることをわたしたちに警告しているのかもしれない。

二〇一四年にはデング熱が日本に入りました。東京の中心部の公園でカが※媒介したことがわかつて大きな騒ぎになりました。二〇一五年も心配したのですが幸い発見されませんでした。一方、二〇一五年からは、ジカ熱(ジカウイルス感染症)が世界的に流行しています。デング熱にかかるのと死に至る場合があります。ジカ熱では死亡例は知られていませんが、妊婦が感染すると脳と頭が未発達なままの胎児(小頭症)が生まれる可能性があります。ウエストナイル熱を含めて、これらはすべてカが媒介するウイルス病で、熱帯地域に多いものです。(2)海外との交流が増え、温暖化して生態系が単純になっている日本の都市部は、これらの恐ろしい病気が※蔓延する危険性をもっていると言えます。日本の都市部に非常に多いヒトスジシマカは、これら三つの感染症のいずれも媒介する力をもっています。

(沼田英治著「クマゼミから温暖化を考える」より)

注(※)

孵化Ⅱ卵から幼虫がかえること

一齢幼虫Ⅱ卵からかえつてから脱皮するまでの幼虫

ヒートアイランドⅡ都市の気温が周囲よりも高い現象のこと

媒介Ⅱなかだち・双方の間に立つてとりもつこと

蔓延Ⅱはびこること





